

### 自己評価及び外部評価結果

#### [事業所概要(事業所記入)]

事業所番号	0175900067		
法人名	株式会社長建工務店		
事業所名	グループホーム 夕張サザンクロス		
所在地	夕張市清水沢1丁目60番地		
自己評価作成日	平成25年3月5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0175900067-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0175900067-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### [事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)]

夕張で平成14年に民間法人としては最初のGH開設して10年経過して、昨年より初心に戻る事を目標として来ました。スタッフが入居者と触れ合っているのか？を再度胸に手を当てて考え、総括施設長と管理者、スタッフが反省をし、開設当時に行っていた「入居者の交流触れ合いの場を設け、毎日16時より30分程度レクリエーションとして、輪投げ・花札・トランプ・ちぎり絵・歌唱・お手玉・ぬり絵・パスル・ボーリング等を行い、また週の2日は入居者とスタッフ共同でプロの料理人に作り方を伝授を受け、手作りハンバーグと手作り餃子を作る事にしました。食事時間も手作り談義に花が咲き過ぎされている。グループホームの火災が発生し、高齢者の犠牲が出た事は、我々木造のホームにもあり得る事と判断し、すべて火災訓練がなされていなかった事の原因も云われている為、当ホームは年2回と決められている訓練を火災訓練においては毎週木曜日にレクリエーションとして、スタッフ同士で行い、また入居者とは「月1回、夜間と日中に行っている」。前は入居者の方から訓練の連発で「きつからもう死んでも良い」と言われた入居者もおられたが「火災訓練は大事だからネ」と、入居者の方から言われる様になった。現在は月に最善までとの目標で、スタッフと入居者が何度も訓練に慣れて楽しそうに真剣に避難訓練に参加されている。また入居者の誕生日会も以前はまとめてしていた事を入居者の誕生日の日に「確實」に行ない「次の年には出来ないかも知れない、今年是最後かも」と云う意味をスタッフに指導して尊敬と誠意を込めた誕生日会を開催している。無縁死の防止、生前契約について「身寄りの無い入居者の終末後の葬儀、埋葬等の後始末、家族が遠方であろうしても終末後の後始末が出来ない現状、入居者の入院中のお世話(グループホームは入院したら介護報酬がカットされる)のを、生前に取り決めをして「心配しないで死ぬ。」契約の作成を行なった。

#### [評価機関概要(評価機関記入)]

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成25年3月30日		

#### [外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)]

**<職員の就労環境の整備>**  
一人ひとりの職員が向上心を持って働けるよう日々の努力や実績、勤務状況を把握しながら給与水準、労働時間など配慮し、就労環境の整備に努めている。また、財政破綻した夕張市でありながら就労の機会の確保や勤務形態の配慮、給与の昇給等地域に還元する取り組みを実践している。

**<地域とのつきあい>**  
長崎より財政破綻をした夕張市に移り住んでグループホームを開設して10年、地元商店街や商工会議所、消防団への活動参加などでグループホームが地域の一員として日常的に交流している。また、地域で認知症について理解を得るための講習会の講師を務めたり、近隣住民に緊急時に協力等が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけたり、地域の防災訓練に参加するなど協力・連携体制構築に取り組んでいる。

#### . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成14年グループホームを立ち上げる為には理念を事前に作成する事だと教えられ、当時参考になる資料も無く、数少ない資料を参考にして作った当ホーム手作りの理念です。総括施設長は新人への研修やホーム内の職員へ日々のミーティングを通じて常に理念を基に実践につなげています。理念の一つ一つの意味がある言葉を色々な参考を説明し理解をさせます。その中でも、第一は「お年寄りにはお年寄りの尊厳がある事」を指導します。入居者に「ちゃん」付けの呼び方は禁止、「-さん」と名前を言う事も常に伝えていきます。最善をつくす事」と「最期まで」がホームの理念としています。	事業所独自の基本理念をつくりあげ、日常業務やミーティングを通じて話し合い、共有している。また、基本理念を基に一人ひとりの職員が向上心を持って働けるよう日々の努力や実績、勤務状況を把握しながら給与水準、労働時間など配慮し、就労環境の整備に努めている。財政破綻した夕張市でありながら就労の機会の確保や勤務形態の配慮、給与の昇給等地域に還元する取り組みを実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの近くに総括施設長江口孝則の借りている自宅があり、地域には常に夜なども歩いて、住民や商店街の人たちとも付き合っている。またサザンクロスは地域の清水沢復興組合にも加入しています。地域へは公衆便所の解放など地域貢献の件も理事会され、確実に地域の活動への参加や地元の人々との交流に努めている。	長崎より財政破綻をした夕張市に移り住んでグループホームを開設して10年、地元商店街や商工会議所、消防団への活動参加などでグループホームが地域の一員として日常的に交流している。また、地域の防災訓練に参加するなど協力・連携体制構築に取り組んでいる。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のホームとして、町内で、自治会にも加入し地域の方の葬儀などの際は世話役として参加したり、いろいろな地元での行事参加と寄付行為により、地域の方へ介護施設の事業所として、また認知症のみでなく、高齢者への対応や身体障害者の対応についても相談が、頻繁に持ち込まれる。今後も地域の方々気軽に立ち寄れる雰囲気作りを心掛けている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に一回の定期的な運営推進会議を実施し、市役所役職員、包括支援センター職員、町内会役員、博識者、地域商店振興会役員、利用者、法人代表者及び管理者、ケアマネスタッフで構成し、報告など詳しく写真を使い説明している。参加者委員の意見をサービス向上に活かしている。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、防災対策や地域との協体制構築等具体的内容について話し合っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。2ヶ月に一回の定期的な運営推進会議に市担当者及び包括支援センター職員の方が参加され、また何か必要な時は頻繁に連携を充分にとりサービスの質の向上に努めている。市の包括支援職員や市介護保険グループ職員とも、積極的に協体制を築いている。	市担当者や包括支援センターとの連携の重要性について認識し、日常的に情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関などの施錠は禁止し、自由に気軽に立ち寄れることが出来るよう努めている。「施錠しないホーム」を我々は理念としている事を、スタッフには伝えていて、十二分に理解しているが、現在入居者が25年1月に、無断でホームから出てしまい、警察に保護された件があり、仕方なく、内部での施錠を行っている。	身体拘束廃止、高齢者虐待防止について管理者及び職員は共通認識が持てるようにミーティングや日常業務を通じて話し合いし、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	道主催の講習会に参加し、基本的考えを再度学ぶ、いかなる虐待を見逃ごさないよう、スタッフなどにも徹底した虐待防止の管理している。入浴介助の際にも身体に虐待形跡が無いかのチェックを常に行なっている。高齢者への虐待など「絶対」に見逃ごしはしないという姿勢がホームの精神である。理念として「絶対にこのホームは、虐待は許さない。見逃ごさない。見ぬぷりをしない。」			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つべきだが、制度の理解まではまだ時間がかかっている。管理者は入居者が日常生活自立支援事業や成年後見制度について利用している為に理解しているので、ホームの職員にも学ぶ機会を持たせたいと思っている。利用者に必要な状態がきたら関係者と話し合いをしている。当然、それらを活用できるよう支援している。今日もまだ満足はいく事は、無い為。反省課題である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の改定時などは、事前に手紙などを郵送し家族等に説明している。不安や疑問点があれば、いつでも十分な説明を時間を掛けて行なう事も、家族等に説明している		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者、家族等意見が、近年は無かった。意見が出た時点では、毎日のミーティングでも報告を全スタッフの前で実行する事になっている。今後も利用者の状態変化時の連絡や健康面での相談を話し合い、掛かり付けの医師の意見や家族の意見なども運営に反映している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように市町村等の相談窓口を明示し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前は意見もたくさんあったが、この頃は職員の提案や意見が少なくなって来ている。が、勤務後のスタッフとのいろんな意見を聞く機会を設けているつもりである。いろんな意見を和気あいあいの中で聞くことにして、提案があれば取り入れる事になっている。	ミーティング等を通じて職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、就労環境の整備に努めてコミュニケーションの確保に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努める事によって、ホームのレベルアップに努める様に努力をする事になっている。介護報酬が相変わらず低いためにも低賃金であるが、いろんな努力で、給料を見直し、全員の昇給を行った。また、冬の激雪手当なども3月にはも特別手当として支給し、スタッフへの感謝の証を示している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でケアにおける、その者の能力と力量に応じた実務での優しい言葉での指導が必要と改めました。諦める事なく、資料文書を参考にしてと口頭での伝達指導が重要である事を実践する社内指導研修を企画しています。また、その他の研修など積極的に参加を促す事も、スタッフを育てる意味でも必要とする為に、機会を設けて参加させる事を心掛けています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道の夕張という過疎地にホームはある為に、代表者として管理者や職員が同業者と交流する機会を作りが不足していると感じている。ただし開設当時よりホームの見学はいつでも受け入れる体制であり、入口の扉は開けているつもりである。開設当時はその他との交流もあったが、近年は講習会等の機会と同業者と情報交換をしているのが現状である。現在は医療機関などと情報交換しケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>管理者やスタッフが、日頃の介護等で信頼を得て、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。利用者の話をじっくり聴き、そばに付き添い入居者との信頼関係が築くよう努力している。当ホームの入居者は、若年性認知症の為、自分の意志をはっきりと示す為に、ホーム内の飾り付けや入居者同士への、気が付かない事をスタッフにも助言する事などもある。例えばホーム内ばかりでなく、外にも出たいとの事を言った事で、毎週の買出しにはスタッフと同行して買い物を買う担当になって貰っている。また時にはジャズライブや映画観賞にも江口孝則代表者と一緒に行っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>平成14年に開設して10年経過するが、代表者の考え方としての指導は、サービスを導入する段階で、最初に「家族がどんなことで困っているのか？」を聞く事において、まだ不満足を感じる様に思っているため、今後も出来る限り初心に戻り、謙虚な思いを持つことを改めて勤める事に、管理者と協議している。また「利用料など金銭面など」に関しても、出来る限り要望に答えるよう支援している。当ホームは、家族の居ない、無縁の方が入居されているが、家族と同じ思いで、また人としての最期を安心して迎えられる事への、事業所として出来る限りの努力を行っている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>何が一番必要としているのか見極め、安心した生活を送れるように、介護していて観察し「出来る事、出来ない事」を見定めて、支援している。が、他のサービス利用も含めた対応に努める事も、必要であるが現在無いのが現状である</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームの「理念」にあげている通りであり、利用者の尊厳を尊重しながら支えあう、信頼できる家族同様の関係を築いている。介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係、それがグループホーム本質である。だが、それも我々の自己満足かも知れないと、自問自答しながら、うぬぼれる事なく、を今後の我々の課題と思っている</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>開設して10年経過するが、代表者の考え方は、家族の関係を常に基本として、スタッフへも伝えて来ている。家族の居る者、家族がいても見放されて居る者、無縁の者など、家族の支援はいろんな例が有るが、共に支えて行き事については事業所として出来る限りの努力を行っている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場所との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。事へ、扉を閉じる事なく、支援して行く事を、当然努力している。</p>	<p>知人の訪問支援や散歩、町内会行事等の参加を通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ホーム内で、入居者同士が、会話や見守りなど、安心して笑顔に、胸を打たれる事もある。一人一人が孤独を味う事が無いホームが、理想であり、スタッフの入居者への思いやりが、入居者にも伝わっている様な気がした。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、当ホームとは関係なく、途切れる事が今までの事実であり、現実には行っていない。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握し、外出や趣味への支援などを本人本位に検討する様に努めているが、理想と現実には難しい事が多い。室内への持ち込み家具等で希望を把握している事もある。	生活歴の把握やモニタリングを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画書で、分かる範囲で入居者の一人一人のバックグラウンドを調べる事で、これまでの経過を把握する事にしている。また日頃の会話で経過バックグラウンドを知りその人らしく暮らせるよう出来る限り努力して支援しているつもりである。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方の把握は、個人日誌などで行っている。毎日の様子を元に心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2名のケアマネが入居者本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、総括施設長やスタッフなどの意見を取り入れている。本人、家族、必要な関係者と話し合いについては、家族の意向は聞く事になっている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見やモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に個人日誌などで記録し、スタッフ一人ひとりの入居者への気づきなどを記入している。介護計画の見直しに活かす事で、一カ月のまとめとしての介護日誌なども作成し、介護計画書の見直しに役にたっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化については、当ホームは取り組みがまだしていないため、今後の課題となる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、日々の楽しい生活を送れるよう支援しているが、地域資源を把握してはいない為、当グループホームとして、認知症の入居者へどのような支援が出来るのか？を検討課題としている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の状況に応じ、これまでの掛付の医師への受診へ同行なども継続しながら、またその他にも適切な医療を受けられるよう1人の掛かり付け医師の支援を受け、毎週木曜日に再起診察に来訪など、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む様に努力している。定期的に診療に来訪されている為、適切な医療を受けられるように支援している。健康状態や急変時など24時間かかりつけ医師に報告し、協力病院に依頼など、適切な医療を受けられるように、万全な体制で安心した入居者への支援を行なっている。	医師の往診や協力医療機関との連携、受診等への支援で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療加算の手続きはしていない。かかりつけの医師がその代わりにされている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、直接看護師や医師と病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。夕張では入院施設が無く、岩見沢労災病院や岩見沢市立病院へ搬送して入院となっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行う事を、行う様にしている。看取りに関して契約書に明記し、家族に同意書もいただき、職員にもホームの方針を説明している。また、身寄りが無い入居者に関しては、事業所として、江口総括の考え方としては、「人としての最期を誠意を持って行うこと」を、当ホームでの基本としている。無縁の方が年間に数名、死去されているが、考え方通りに、すべての事、葬儀及び納骨までの期間の安置を江口孝則総括施設長がスタッフに指示し、行っている。理念での書き入れどおり、長年の歴史でもホーム入居者がグループホームとは最期までの介護が当然であるべきであるとしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有している。また、身寄りのない無縁の利用者には「人としての最期を誠意を持って行う」を基本理念として、遺体安置の見守りからお通夜、葬儀、納骨まで執り行うなど尊厳を大切にしたい取り組みを実践している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応法を定期的に訓練し、初期対応がスムーズに行えるよう常に訓練しているが、それでも不足であると思われる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当ホームは、基準外の延床面積の為、スプリンクラーの設置がされて無い建物であり、火災においては神経質になっているため、毎月一回は火災設備を利用した火災避難訓練を行っている。スタッフが疲れる事もあるが、入居者の命を守る為には必要な事であり、説得をしている。施設長以下2名の甲種防火管理者講習を受け、地域の火災・避難訓練や地域の災害訓練に参加し日頃より実技を行っている。また江口総括施設長は現役の消防団員である。	1ユニットの民家改装型のグループホームでスプリンクラーの設置を現在検討中である。また、毎月火災設備を利用した避難訓練を実施し、地域の防災訓練・避難訓練に参加している。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、スタッフへ新人研修で一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮した言葉かけを行う事を教育している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないようにミーティングで話し合い、職員間で周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、利用者の希望や思いを把握して一人ひとりのペースを大切にしているし、自己決定できるように働きかけている。が、長年ホームに入居している人が多く、自由な為、結構自己主張が多すぎる。事もある。が「自由に言える」のについては、それもありがたい事であるかも知れないと思っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、利用者の希望に出来る限りそって支援している。が、身体を動かない事があるため、毎日時間を決めてスタッフと触れ合い活動で変化のある日常の暮らしとしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性に合わせ、その人らしくおしゃれが出来るよう取り組んでいる。散髪にも希望者は行ける様にしている。衣服も個人の意志を尊重して自由にしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう好みなどを取り入れ、栄養バランスにも気を使っている。が入居者の希望より、スタッフの食べたい希望を取り入れる為、スタッフがタンスの様になりつつある。一週間に2日は利用者と職員と一緒に手作りギョウザやハンバーグ等、食事作りをしている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と利用者が、毎日の調理や食事の準備、後片付け等一緒に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をし、個人に応じた食事量と1日の水分量などを日々の記録に明記している。一年中、生野菜だけは摂取が基本としている。料理は技量もあるが味においては努力の要素がある。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本にご誤の恐れもあるために、夜食後に口腔ケアは行う。また本人の力に応じ口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的時間的にでなく、一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援する事により、一人一人の失禁を出る限り少なくなるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的にホーム内でのレンションで、無理のない体操などの運動を行い、便秘予防に努めている。毎日便の状態を詳しく(色、堅い柔らかい?回数)排尿も色、回数の確認をしている。便秘の理由も原因等をスタッフのミーティング出報告などをして、一人一人の様子を把握することに、指示をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月水金の週3回としているが、状況に応じて入浴出来ない者へは「足湯」を行っているが、足湯の設置をする事になってから数年たつが、足湯が入居者の楽しみになっている為、今日は毎日入居者は足湯をしている。入浴は一人ひとりの希望に沿った湯温度に設定している。	週3回の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、足湯を継続的に実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な生活が出来る事が当ホームの特徴であるため、休憩したり安心して休まれるよう一人ひとりにあった生活環境を最善の提供している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後内服薬の確認をし、副作用などの変化に注意し用法などの理解をしている。ミーティングで説明等をしている。また間違った服薬がスタッフに無い様に、入居者の薬を一人一人分かりやすくしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から趣味や生活歴を、なにげなく聞き出し、その過去を思いだしたりした、生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、の会話等で、楽しみごとにつながるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などを行い季節の行事を企画し、花見などを行事の中に取り入れ外出の機会を多くしている。入居者もある者は高齢になりあまり外出されない。ある入居者は外に出たいとの希望がある。入居者と共に出掛ける等は行なっている。春になれば近隣の散歩などもしている事を、自立する意味で、支援している。入居者が家族と外出する要請にも、すべて支援している。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援している。また、ドライブやお祭りなどの地域の行事参加等の支援が行われている。冬期間は、外出できる機会が少なくなる為、折り紙や魚釣り、輪投げなどのレクリエーションを行い楽しみごとへの支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つことはしていないが、欲しい物があれば、一緒に買いに行き、ホームで立て替える方式にしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など自由に利用している。手紙なども投函が困難の方はスタッフのほうで投函している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前方の山が山々の桜や紅葉が見られる部屋に隣、季節感ほめ込み絵の様になっており、利用者にとって極楽の場所である。また共有空間では犬を飼って、入居者の癒しに繋がっている。	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。また、リビングや廊下の壁には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけが行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家を改築して家庭的な雰囲気の中で生活していただけるよう支援している。気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。入居者同士のトラブルも無い。女スタッフ同士のトラブルはある		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を考えながら、出来る限り、品は無いが、入居者にとって「分かりやすい事をも目的とした表示」を付けたりして、一人ひとりに合った生活環境を整えている。		

### 目標達成計画

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	一人ひとりの力や好みを活かして、食事が楽しみになるよう支援していく。	利用者も参加したおやつ作り	一人ひとりに合わせたエプロンを作り、おやつの手作りをしていく。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。